

教養講座 地元学と考える

第百三十六回「地元学と考える」
(二〇一五年四月二五日開催)

「三・一」と
「雨ニモマケズ」
講師 油井 憲一さん

油井さんとは長い付き合いで、まだウエディングエルティにいた時代からです。言葉遣い、身のこなし、すべてに大変丁寧で、接客のプロとはこのような人なのだろうと思つたものです。

今回のお話も聞き手や周囲の人々への気遣いが強く感じられ、気遣いは周囲の人々への思いやりと観察から生まれる。それが、油井さんの川柳の世界を作っていることを感じます。自分が話す方言を福島の方言と一括にせず、大笹生の方言とこだわる。そこには、今、生きている大地とそこに生きている人たちの関わりを大切にしながら、同時に、生きている現場が伝えてきた言葉の力を通して、生きていく現場の人々の震災以後の苦しみを

を世の中に伝え残そうとする意思が強く伝わってくる。

『切らないで』とりんご今年も花が咲く。川柳の五・七・五の短い言葉の中に、福島で農業を続ける農民の苦悩を綴っている。果樹農家として現在も現役を続けながら、いつまで続けられるのか、りんごの木の世話を続けていくことへの思いと不安が入り混じって切なく思いが迫ってくる。仲間の専業農家も息子たちは福島を離れ誰も後を継がない現実、周囲のりんご畑には切り株の並ぶ畑だけが増えていく。

原発事故の影響が福島の農民を翻弄し続けている。放射能の降る中で仕事を続け、後から教えられ危険だから仕事をしないようにとの指導、今度は一転し作りなさい、作らないと賠償金がもらえない、作っても風評被害で売れない、風評は実害ではないので賠償が打ち切られる？社会に翻弄される現場の農民の苦悩と怒りが時間を超えて宮沢

賢治の世界に重なる。現場の声を伝える福島語り部として、大切な方であることを思う。(T・O)



宮沢賢治「雨にもまけず」

風にもまけず

雪にも夏の暑さにもまけぬ
丈夫なからだをもち
欲はなく
決して怒らず

いつもしずかにわらっている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜をたべ

あらゆることを
じぶんをかんじように入れず
よくみきしわかり

そしてわすれず
野原の松の林の蔭の
小さな萱ぶきの小屋にいて

東に病気のこともあれば
行って看病してやり
西につかれた母あれば

行ってその稲の束を負い
南に死にそうなる人あれば
行ってこわがらなくてもいい

いい
北にけんかやしょうがあれば
つまらないからやめるといい

ひでりのときはなみだをながし
さむさのなつはオロオロあるき
みんなにテクノボーとよばれ

ほめられもせず
くにもされず
そういうものに
わたしはなりたいた



教養講座 地元学と考える 第百三十八回予告

マチュピチュにはじめて登った日本人

<講師> 野内セサル良郎さん (日本マチュピチュ協会副会長)
<日時> 2015年6月20日(土) 13:30~15:00
<会場> まちなか夢工房2階 (参加費) 500円

<講演内容>

「日本人の祖父は、福島県出身、マチュピチュ村の初代村長の野内与吉。大正4年に契約移民として日本を離れ、筆舌に尽くしがたい大変な苦勞をしました。1939年にマチュピチュ村初代村長として任命され、生涯をマチュピチュ村に捧げました。祖父与吉の遺志を受け継ぎ、日本とペルーの発展のために力になることが私の夢です。」と語る野内さん。野内さんの活動についてご報告いただきながら、日本とペルーのこれまでの繋がりや、これからの発展についてお話をさせていただきます。

*参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに出席のご連絡をいただければ幸いです。
(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)

*4月以降も地元学会場は引き続き「まちなか夢工房2階」にて開催いたします。

ひまわりプロジェクトの栽培協力者さんを募集しています!

◆ 栽培協力応募・お問い合わせ先 ◆

ひまわりプロジェクト実行委員会 (担当: 川島)
〒960-8035 福島県福島市本町 5-31
TEL: 024-524-2230
FAX: 024-525-8285
E-mail: yukari.k@nposhalom.net

憩の仲間たちが
ひまわり情報を更新中♪



ひまわりプロジェクト

最新情報はブログ記事をご覧ください!

blog 「ひまわりプロジェクト2015」

URL <http://shalom-net.jp/himawari/>

※参加申込書をお持ちの方は栽培面積等必要事項をご記入の上、上記宛先までお送り下さい。
※参加申込書をお持ちでない方はこちらからご送付させていただきますので、FAX番号、メールアドレス、ご住所のいずれかをお伝え下さい。